

雨の故か見に来る人があまり無い、鹿子木氏のクレオンの西洋婦人があまり好いから寫してやらうと思つてスケッチブックを出す、後から足音、吃驚して見るとS君である。隣室からパチ／＼と算盤の音がして居る。雨はまだ止まない様だ、二三回も見まはつたので歸つた、今日は寫生にも行けなかつたが、より以上益する處があつた、僕は三越呉服店が、自己の營業に有利の爲であるにもせよ、斯道不振の當地に毎年斯かる催しあるを喜ぶ者である。

隨感錄

武州浦和在西堀

石川幸三郎

○繪と畫。此の頃はよく繪畫展覽會と云ふ物が流行る。之れは世間の人が漸く一般に繪畫と云ふ物に注意する結果であつて、藝苑のために甚だ喜ぶべき現象である。

所で大抵な人は繪畫といふ字は讀めるが、其の意味は知らぬ者が多い。て其の意味は同一で單にゑと云ふだけだと思つてゐる。而し繪と畫とは自ら別である。或る本を見ると繪とは美しく繪具を以て彩色したものを云ひ。畫とはあまり彩色の這入つて居ない、筆力を主としたものを言ふのだと書いてある。

○寫生の材料。一日一生懸命にスケッチグラウンドを探して居てもちつとも書いてこない人が居る。試に聞いて見ると皆異句同音に、好材料がないのだと云ふ。成程もつとも思はれるが、それは其の人々が好材料を見つけないと云ふことを證明してゐるものだ。寫生と云ふものは何處までも自然に頼ら

ねばならぬ。自然は即ち寫生の好材料であつて、自然と云ふものは至る所に存在してゐるのだ。であるから自然を眞にうつした者が眞の繪である。木一本でも眞にうつせばそれは眞の繪として充分價值あるものだ。

兎も角寫生の材料がないと云ふて悲觀してゐる者は材料がないのでなくて見えぬのだ。

○圖畫と性格、圖畫及び書によつて其の人の性格や勤惰の状態が、歴々とわかるものだ。殊に畫に於て充分是れを見てゐることが出来る。性格が活潑で少しもやましい所のない人が畫いた畫は何處となくイキ／＼して居て心持が好い。見てあきが來ない。所が之れに反して柔弱な心にわだかまりのある人の畫いた繪は何處かにいやな、下品な所がある。見て不愉快な感を人に與へる。殊に油繪に於て往々かういふ物を見掛ける。

それから其の人が懸命に畫いたか又は厭々ながら畫いたかは一見して直ぐわかる。高尚な人格を持つてゐる人の畫いた畫は高尚で下品な人の畫いた繪はどう見ても下品である。

○曲線と直線。繪畫に於て曲線の直線よりも優つて居ると云ふ説は、動かす事の出來ぬ一般美術家の定説である。であるから下等な物即ち無機物から、高等な物即ち有機物に至る迄の階級に於ては、著しく曲線の差がある。其の中で最も曲線美なのは云ふまでもなく、萬物の靈長たる人間である。だから西洋畫に於て近來裸體々と騒ぐのも無理もないことである。

○畫と道德及び風教。畫は美術的趣味の物であるから少しも道

徳や風教に關係がないなどと云ふのは實に愚論だ。畫と云ふものは最も人性に密接なる關係を持つてゐるものだ。

近來何々畫集などと銘を打つて不都合極まる繪即ち男女手を携へて歩いてゐる畫や星や莖にあこがれてゐる畫を書いて詩的などとしやれを云ふ奴が居る。之れ等は實に自分から自分の心の下劣にして而もいやしいと云ふことを現はしてゐる馬鹿物だ。そして現代青年の弱點に附込んで盛んに出版する。之れを稱して非教育的圖畫と云ふ。眞面目に習つて眞面目に畫の妙味を探ると云ふ人の決して手にすべからざる物だ。

況んやこの流儀を眞似て自分は〇〇式である等と得意がつてゐる連中を見ると自分は一種言ふべからざる嫌な心持になる。

問に答ふ

■一 曇れる日の藁屋根及建築物の雨戸及柱などの風雨にさらされて白く見ゆるは如何なる色彩を用ひて可なるや
■二 大下先生個人にて著はされし(水彩畫階梯を除き)書籍ありや
■三 ニュートン製のチューブ入を使用するに拘はらず繪がゴザ／＼になるが熟練の足らぬ爲めにや(○△生)◎
■一 このやうな質問には一番困る、見えた様な色をおつけなさいといふより他に言葉が無い、曇つてゐても暗れてゐても他の物體の反映もあれば反射もある、また酒さされて白くなつたといふても程度がある、木質にもよる、其場で一々説明したらとに角、筆の上では何共しかたがない。此際あまり其色彩に拘泥せず、感じて現はすやう

にしたらよい、其點一部分だけにせず、全體を旨くかいて其心持を出すやうにするのです
■三 繪具の爲めてなく技術の不足である、『アマチュウの繪』といふ講話を見たまへ
■二 なし、そのうち『水彩寫生旅行』といふ書物を出す筈
■四 圖案研究の良書を知りたし(無名)◎
■『一般圖按法』といふもの丸善書店にあり
一通りは分る(定價貳圓)外國の分は同店へ問合はされたし
■一 油繪スケッチ板金縁額の代價及賣店を知りたし
■二 日本水彩畫會若しくは春鳥會に入會すれば油繪の批評も受けることを得べきや(逸名)◎
■一 其様式によつて一様ではないが、安いのは壹圓位ひからある。普通二圓も出せば可なり立派、賣店は京橋竹川町八咫屋、芝新櫻田町磯谷、小石川指ヶ谷町百一山本商店等、照會は山本がよからう
■二 洋畫なら何でも批評をする。

本會同人眞野紀太郎氏のために桂淵畫會を設け申候別頂趣意書の通り氏の製作は極めて眞面目のものゝみ従つて家寶とすべき肖像畫の筆者として最も適當なるべく信じ申候就ては依頼者の一人にても多からんことは吾等發起人の切望して止まざる處何卒此際御知友御勸誘速に御申込相成度願上候

春鳥會 大下 藤次郎

追て讀者諸君の分に限り御申込は本會にても取扱可申候